# 時事新報

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

明治廿七年十月五日　金曜日
舊暦甲午九月七日（庚辰）
日出午前五時四十分　日入午後五時十九分
月出午前十一時四十九分　月入午後九時四十三分
滿潮午後八時二分
（西暦一千八百九十四年）
年始より二百七十八日　年末まで八十七日


## ○○○○○○○○帝國議會議事筆記

今や海陸の戰局、各所に在り遠く社員を特派するの方面一二に止まらず大本營は廣嶋に進み大元帥陛下茲に行幸あらせ給ふ新聞紙の報道に忙しき既に其極度に達したる折柄、臨時帝國議會は來る十五日を以て廣嶋輦轂の下に召集さる新聞紙上、報道を要するの事件續發して其有樣、新聞社の屋上、百雷の一時に迸裂せるが如しと雖も新聞紙の大本領を現はす亦此時に在るべし本社は事件の續發するに從ひ之に應じて報道を蒐集するの部署を定めて讀者平生の愛顧に答へ以て帝國首府に在る第一の新聞紙たるに背かざらんことを期す今後の部署左の如し

本社は來る十五日を以て廣嶋に召集さるゝ帝國議會の議事を急速讀者に報道せんが爲め特に社員四名を廣嶋に派出すること左の如し

### 臨時廣嶋出張員

議會報道任　菊池武德
同　木下立安
同　堀井卯之助
同　杉山虎雄

右の外、從來廣嶋に滯在する足立、山崎の二氏も餘力を擧て議會の報道を補助する事となし**議場の事は一切至急電報**に依りて報道せしめ翌日の時事新報に登録し**議會は遠く廣嶋の地に開かるゝも時事新報の議事筆記は例年東京に開會せらるゝと毫も異なる所無かるべし**

戰況の報道に關しては從來の部署を繼續し**近日更に數名の特派員を增遣**し以て報道の迅速精確を期す今後の新報紙上は報道愈々迅速記事愈々精確百花爛熳の觀あるべし本社戰況報道員の所在地と其擔任事務を列記すれば左の如し

大本營所在地擔當　足立荘
大本營所在地通信員　山崎知遠
朝鮮京城　石州信
北進軍隨行　高見龜
北進軍隨行　間利子八五郎

北進軍隨行
### 戰況畫報隊
杉幾太郎
畫報擔任　淺井忠
畫報擔任　安西直藏
寫眞擔任　淺井魁一

時事新報

## 從軍夫卒の救護

今度府下の學醫數十氏相圖り從軍夫卒救護の事を發起して廣く天下に訴へたる其要旨は左の如し

從軍夫卒救護の要旨

數萬の貔貅海陸並び進み深く異域に入り大纛は移されて廣嶋にあり海に陸に續々大捷を報し王師向ふ所殆んど勁敵無し今や我が恐るゝ所のものは特り疾病の我兵を犯すの一事あるのみ試に古今の戰史に徴するに病に死する者は毎に戰に死する者より多し近くはクリミヤの役に見よ普佛の戰に見よ西南の役に見よ瘧疾、赤痢、窒扶斯、虎列剌等の惡疫が如何に慘毒を逞ふして其戰闘力を減殺せしや惟ふて爰に至れば毛髮爲めに悚然たるものあり抑も軍隊の衞生は我陸海軍の夙に黽勉整理する所赤十字社も亦力を此間に致し毫も遺憾ある無し唯、夫卒の衞生に至りては僅かに其餘力之を救護するに過ぎざるなり

夫れ夫卒募集の事たるや一種の請負事業にして之に應ずるものは概ね平素衞生の何物たるを知らず飲食唯、其飽くを求め疾病の之に從ふを省みず若し一朝猖獗なる惡疫の其間より流行蔓延して終に我軍隊に及ぶあらば邦家の不幸是より甚しきはなし夫卒の戰時に必要なる固より言を俟たず糧食彼に依て繼がれ彈藥彼に依て輸せられ我が兵勇武なりと雖も糧食竭き、彈藥乏しきを告ぐるに至らば何を以て敵に對せん試みに野津師團長の報告を見よ糧食運搬の困難を云ふにあらずや又大嶋少將の報告を見よ彈藥の欠乏を云ふにあらずや生等之を聞て私かに寒心に堪へざるなり

是役や地理、運輸に便ならざるが爲め遽かに數萬の夫卒を派出せしを以て之に適する衞生保護の如きも專ら之に從事するもの無きは亦已むを得ざるなり是を以て夫卒の疾病に侵さるゝや直に醫治に就く能はず空しく道路に呻吟するものあるに至る豈悲慘ならずや今にして之が救護の道を講ぜずんば其影響する所、得て料り知る可らざるなり

軍隊の衞生は備はれり赤十字社も亦力を致せり故に今日の急は唯、夫卒の救護にあり而も是れ一大事業、一人一個の力能く爲す所にあらず是れ生等が相謀り四千萬同胞に訴へ翼ふて此擧を贊翼あらんことを請ふ所以なり

別文面に示す如く夫卒に衞生の輕んず可らざるは猶は軍隊と同樣にして萬一傳染病等に罹ることもあらば其病毒は忽ち軍隊に波及して意外の障害を生ずるに至る可し現に在外の夫卒中には赤痢等に侵されたる者もありと云へば直に豫防救治の方法を講ぜざる可らざるは勿論國内にての戰爭ならば臨時に人足を募集して曾て差支あることなく偶々病氣に罹るも一歩近隣に出づれば醫藥を得るの道もあり又は家に歸るも容易にして萬事都て便利なれども此回遠征軍の進む所は世にも稀なる不便の國土にして入用の人員は大抵皆本邦より伴はざるを得ず而して其實際に必要なるは殆んど兵卒に等しく軍器糧食等一切の運送は夫卒の任ずる所にして其運送力と兵士の戰闘力と兩々相俟て始めて功を奏するものにてあれば彼等の病苦を憐むなどと云ふ人情談を離れ單に算數の上より論ずるも夫卒等の病に罹るは軍隊の運送力を減ずるの不利にして直に戰爭に大影響を與ふるや明白掩ふ可らず然るに兵士の衞生治療は平生成規のありて完備せる上に赤十字社も與に力を盡すことなれども夫卒に至ては何分にも之を顧るの餘裕なきこそ遺憾なれ然かのみならず此種族の者共は常に攝養に無頓着にして生來の健康に依頼するの外別に疾病を防ぐことを爲さず又防ぐ可きの方法に乏しとあれば恰も自から病を呼ぶも同樣にして醫道の一方より見るときは救護の最も急なるものと云ふ可し左れば學醫諸氏の發企は國家の急に應じて其本分の仁術を施すものにして義擧中の義擧、我輩は之に大贊成を表すると共に諸君の躊躇せざるを齊しく天下公衆に向ひ速に贊助あらんことを勸誘して止まざるものなり

## 雜報

### ○廣嶋特報

十月一日午後九時大本營所在地に於て　特派員　足立荘

九月十六日我軍平壤を陷れたるとき清軍より獲たる諸國文武官往復書類●●●●●●●●●●

袁玲より將官恩某に呈する稟申書

（恩は海軍總兵兼旅順副都統恩興なる可し）

謹て稟す十四日に進呈したる一書は既に高覽を經たる事と思考す其後將軍（盛京將軍裕祿か）は李中堂より日本軍艦旅順口大連灣等を侵襲すとの電報を領せるを以て牛莊海關道善聯に轉令し直ちに水雷營をして迅速に水雷を布設し以て敵艦の來侵を防禦せしめらる本營此命を領せしより晝夜其敷設に從事し水兵二十名の内利濟、利涉（水雷敷設船）に四名を派し昨日又善海關道より運江（水雷布設船）に五名を派せられ自餘の十一名を以て敷設を行ふを以て實に人員の不足を感じ水雷兵の水雷を裝備し電纜を延べ水雷を船に送る等其勢力一を以て十に當らざるなし目下既に布設したるは三群連にして一群連に九水雷を結着し即ち淺所には五百所海底水雷三箇を結着せる二線を、中流には一千所の海底水雷三箇を結着せる三線を、中道最深の所には一千五百所の海底水雷三箇を結着せる三線を布設したり以て敵艦の來侵を防禦するに足る可し十五日海關道より全州の副都統順營官馬氏の通知により將軍に日本軍艦の全州大孤山各港に來襲し發砲擾亂したる事を轉報し將軍大定欽差大臣（東三省練兵大臣海軍幇辨定安）と協議し入營兵二營を全州大孤山に派遣して防禦せしめられたりとの通報を得たり目下牛莊に於て日本軍艦來襲時々港外に砲聲を聞くと口傳し人心驚惶して定まらず然れども果して日本軍艦なるや否やは未だ確かならず此旨先づ稟報す

八月五日（明治二十七年九月四日）接收　袁玲　敬具

### ●●●●東學黨首領訪問記

東學黨の情狀探究の目的を以て去月十日同黨首領を全州に訪問したる某氏の筆記左の如し

本月二日龍山を發し廣州…て九日全州に着し東學黨…鳳均を全羅監督に訪ふて…の後房に於て面會し三時…金鳳均一名を全明叔とい…し金は實姓にして全は假…執り姓名を通じ或友人よ…仰の念に禁へず今回京城…で余の素志と東洋の現勢…眞正經濟の主義を述べて…論じ金の教示を乞ふ金も…余の渡韓以來感ずる所を…抵左の如し

我等唯閔家の一族が要路…にするを見て慷慨に堪へ…けんと欲し屢々政府に建…られず是れ閔家内に在り…遷せしめざるものと思惟…を以て兵を起せしなり然…分を爲して今日日清の兵…等が千秋の遺憾とする所…我政府に勸告し其餘力を…るゝありて既に閔家を…政法を正さんとす我等の…翻然圖を改め正業に復す…所、太院君の爲す所我等…する能はざるものなし…起を制すると同時に我政…り最日公（余を指す）の知…を蒙り實に…大に僕の…見を…

余問ふて曰く

足下は…の士其日本の…細を知る能はざるが爲め…云はるゝは僕の實に…致すを以て一に閔族の…る能はざる所なり…ず其…百年來…法の…に…を守りて世界の…しき途に此…むべしと雖ども是れ…つるを思はず…む

金答へて曰く

誠に貴…の如し…を以て迂濶を…公の説を聞かん

…に於て余は更に…の紙は書するを…進め顔色を變じて…所におゐて…何せん

余は…

余…